

水戸駅周辺・ 偕楽園

(茨城県)

徳川御三家のお膝元「水戸」の 巨樹と史跡をめぐる

水戸は古くから那珂川河口の港として栄え、「水運の戸口」とされた重要拠点でした。「大日本史」を編纂した第2代藩主徳川光圀や、第9代藩主徳川斉昭など、徳川御三家のひとつ水戸徳川家の傑出した藩主の元で行われた数々の治績の一部は、現在でも水戸藩ゆかりの史跡として残っています。

このうち、水戸徳川家の居城があった「水戸城址」徳川斉昭が天保12(1841)年に開設した江戸時代最大の藩校である「弘道館」と天保13年(1842年)に「偕に楽しむ場にしたい」という願いを込めてつくった「偕楽園」の3ヶ所をめぐる巨樹観察コースをご紹介します。



【アクセス】

水戸駅まで

- 電車：東京駅からJR常磐線特急で74分
- 高速バス：東京駅八重洲南口から110分
仙台駅前から(二本松経由)から290分

水戸駅から偕楽園まで

- 水戸駅北口より偕楽園行きバスで約20分

※4番乗り場(茨城交通)、もしくは6番乗り場(関東鉄道)
※本数が限られていますので、事前にバス会社のHPなどをご確認ください

【偕楽園入園料】

大人300円、小中学生と70歳以上150円

1 戦国時代から水戸の歴史をみてきたシイ 水戸城跡の大シイ

この2株のスタジイがあるのは、徳川光圀が「大日本史」編纂のため水戸城のなかに設立した水戸彰考館があった場所で、現在は水戸市立第二中学校になっています。戦国時代から自生していたと伝えられる歴史的にも貴重な樹木であり、水戸市の天然記念物に指定されています。



【幹周り】430cm・330cm 【樹高】約20m
【樹齢】400年
【所在地】茨城県水戸市三の丸2-11-2

2 武家屋敷にあったクスノキ 弘道館のクスノキ

弘道館は、「教育によって人心を安定させ、教育を基盤として国を興す」という建学の精神のもと設立され、天保12(1841)年から31年間に渡って人材の育成に貢献しました。



弘道館公園には、斉昭の自筆による「要石歌碑」を挟んで2本のクスノキがあります。右側のクスノキは樹齢300年程度と推定され、弘道館の設立以前からその地の武家屋敷にあったものと言われています。

【幹周り】460cm 【樹高】約25m
【樹齢】推定300年
【所在地】茨城県水戸市三の丸1-6-29

4 古くからのパワースポット 太郎杉

太郎杉のある場所は、昔から湧き水が豊富で、夏でも冷たく、玉のような澄んだ地下水が途切れることがなかったそうです。この湧き水は吐玉泉と名づけられ、太郎杉とともに古くからパワースポットとされています。



かつて太郎杉の周囲にはスギの巨樹があり、大きい順に五郎杉まであったようですが、現在残っているのはこの太郎杉のみです。

【幹周り】570cm 【樹高】約25m
【樹齢】推定800年
【所在地】茨城県水戸市常磐町1-3-3 偕楽園

5 吐玉泉の傍らにたたくむ隠れた名木 偕楽園のシラカシ

シラカシは高さの割に幹が太くならない樹種で、日陰でもよく生長します。硬くて丈夫な材質から武具や農耕具などに広く利用され、北関東では、厳しい冬の季節風から家屋敷を守る生垣(屋敷林)として植えられてきました。知らずに歩いていると通り過ぎてしまいがちですが、こちらのシラカシも偕楽園にある隠れた名木のひとつといえます。



【幹周り】360cm 【樹高】10m 【樹齢】不明
【所在地】茨城県水戸市常磐町1-3-3 偕楽園

3 冬に咲く可憐な桜 二期咲桜

冬場に花を咲かせる二期咲桜は、秋から冬にかけてはぼつりぼつりと咲き、春には満開に咲き誇ります。冬空の下、小さく開く一重の花びらが可憐です。初代の樹は水戸藩士久米某邸から移植されたもので、この二期咲桜は初代の樹から接ぎ木で増やした子孫のうちの1本と伝えられています。



【幹周り】260cm 【樹高】4.5m 【樹齢】不明
【所在地】茨城県水戸市常磐町1-3-3 偕楽園

【巨樹・巨木林調査とは？】

環境省では、地上130cmの幹周りが300cm以上の木を対象に、自然環境保全基礎調査の一環として、昭和63(1988)年から「巨樹・巨木林調査」を実施しています。

巨樹・巨木林の情報は「巨樹・巨木林データベース」ウェブサイトをご覧ください。

<https://kyoju.biodic.go.jp/>



【全国巨樹・巨木林の会】

巨樹・巨木林にご関心のある方は、「全国巨樹・巨木林の会」にアクセス！巨樹・巨木林の観察会、機関誌「巨樹・巨木林」の発行、「巨木を語る全国フォーラム」の開催など、巨樹・巨木林に関する活動を行っています。

<http://www.kyoju.com/>



巨樹・巨木林観察コースガイド

水戸駅周辺・偕楽園

(茨城県)

徳川御三家のお膝元「水戸」の
巨樹と史跡をめぐる

偕楽園



水戸駅

3 二季咲桜

4 太郎杉

5 偕楽園のシラカシ

徒歩 12分程度 (900m)

1 水戸城跡の大シイ

徒歩 8分程度 (650m)

2 弘道館の大クス

徒歩 15分程度 (1000m)



吐玉泉の傍らにたたずむ隠れた名木

偕楽園のシラカシ

[幹周り] 360cm
[樹高] 10m
[樹齢] 不明

古くからのパワースポット

太郎杉

[幹周り] 570cm
[樹高] 25m
[樹齢] 推定 800年

冬に咲く可憐な桜 二季咲桜

[幹周り] 260cm
[樹高] 4.5m
[樹齢] 不明

武家屋敷にあったクスノキ 弘道館のクスノキ

[幹周り] 460cm
[樹高] 約 25m
[樹齢] 推定 300年

戦国時代から水戸の歴史をみてきたシイ 水戸城跡の大シイ

[幹周り] 430cm・330cm
[樹高] 約 20m
[樹齢] 推定 400年

大杉森

孟宗竹林

吐玉泉

梅林

好文亭

常磐神社

東門

偕楽園前

要石歌碑

梅林

水戸市立
第二中学校

弘道館

水戸城大手門

三の丸

银杏坂

大银杏

北口

JR 水戸駅

千波(せんば)湖

水戸市民の憩いの場所として親しまれている千波湖は、1周約3kmのひょうたん型の湖です。四季折々の花を楽しみながら水鳥を観察することができます。偕楽園と千波湖の周辺は公園として整備されており、全体の面積は合計約300haで、都市公園としては、ニューヨーク市のセントラルパークに次いで世界第2位(!)だそうです。

